



種名：ゲンゴロウブナ(ヘラブナ) *Carassius cuvieri*
分類：国内外来種 純淡水魚(琵琶湖・淀川水系固有種)

○大きさ

- ・成魚：20～50cm

○生息箇所(すみか)

- ・利根川下流部や霞ヶ浦や関東平野に広く生息しています。

○生態(どんな生活をしているか)

- ・植物(しょくぶつ)プランクトン食で鰓(えら)でプランクトンをこしとって食べる。河川の表～中層を泳いでいます。
- ・春から初夏(3～6月)に水辺のヨシや浮遊物(ふゆうぶつ)に卵を産み付けます。他のフナより岸から離れたところを好みます。

○釣りや漁業

- ・ヘラブナ(ゲンゴロウブナ)は非常に難易度が高い釣りとして有名です。
- ・餌はねり餌が一般的ですが、タナのとり方で餌が変わるそうです。奥が深いですね。
- ・利根川や霞ヶ浦では、定置網(ていちあみ)や投網(とあみ)、四手網(よつであみ)を使う伝統漁法(でんとうぎょほう)があります。

○地域利用

- ・ゲンゴロウブナはヘラブナ釣りの対象として全国に放流されました。釣り目的で放流されているため、食料利用は少ないようです。
- ・一方で関西地方ではゲンゴロウブナは食用としてよく知られており、煮つけやあらい(刺し身)、唐揚げなど家庭から小料理屋で幅広く親しまれています。
- ・ヘラブナは鮓ずしにも使われていますが、ニゴロブナが最高級品です。